



## ⑫ ポピュリスト体験

### フェイスブック

東京大学の松田康博先生が、フェイスブックに投稿して2時間。東京外国語大学の小笠原欣幸先生がシェアしたものと合わせて5万人の「いいね！」がつき、手にした携帯の上で、1秒に数個のスピードでコメントが増えていく。すごいパワーだ。その多くは「台湾人として謝ります」というもの。しかし、あまりに拡散力が強く、怖い。

台湾の総統選挙がらみで貴重な体験をした。SNSの力を思い知ったのだ。

9月初め、両先生の研究会で台湾を訪問した。これは現・早稲田大学の若林正文先生が20年前に始めたもので、毎年、訪問団を組んで台湾の政治経済を調査する。私は専門外だが、トップレベルの方々直接与、お話を伺えるので、この数年、ありがたくご一緒させていただいている。

さて、今年は収穫だった。来年1月11日の総統選挙で、主要候補とされていた方々に軒並みお会いできた。ただし、まさか自分たちが騒動の当事者になるとは。

### 寛大な韓国瑜市長

国民党の総統候補で、高雄市長を務める韓国瑜に会いに行った。端的に言って、彼は典型的なポピュリスト政治家だ。高雄は本来、民進党の地盤。昨年の高雄市長選挙で、国民党が捨て駒として送り込んだのが韓だった。彼はその16年前に立法委員を落選し、その後は

野菜売りをしていてたらしい。しかし、コメディアン的な語り口で急激にファンを広げ、SNSの力でまさかの勝利を収めた。そして、そのまま勢いに乗って国民党内の総統予備選に出馬し、7月にはホンハイ前会長のテリー・ゴウを抑えて当選してしまった。

しかし、その後は多難である。「百年大党」の国民党は超高学歴エリート集団で、彼は高齢の党内主流派から強い反発を受けた。メディアの露出時間が長くなるにつれ、本人の政策的な準備不足も露呈。さらに8月下旬、日本の自民党青年局との会談に25分遅れてメディアのバッシングを受け、社会の雰囲気は彼の資質を疑う方に傾き始めた。

さて、その韓国瑜市長との会見だ。前日、紹介者から、会見場所には時間ちょうどに来てくれ、でも早く来ないで、という連絡があった。不思議ではあったが従った。当日、会見場所近くの駅で降りた直後に電話が鳴る。場所を間違えた、別の行政ビルに来いという。慌ててタクシーを探したが、メンバー全員が移動できた時にはかなり時間が経っていた。会見部屋に行くと記者がずらり、フラッシュがバシャバシャと光る。市長は代表の松田先生に「連絡の不備があって申

し訳ない」とささやき、それからマイクを使って会談が始まった。

終わった後、韓市長は私たちを暖かく出入り口まで見送ってくれた。ただし、それからが問題だった。彼は直後に記者会見を開き、「僕は日本人を25分待たせよ」「お客様だから許して差し上げなきゃ」と度量の大きさを示した。台湾中にすぐニュースが伝わる。

### 民主主義の怖さ

これでは、まるで仕返しのために私たちを意図的にはめたようではないか。真相はわからない。しかし、気分は悪い。今後の調査に影響が出ると困る。そこで代表の松田先生が、自分たちは遅刻したのではないとフェイスブックで事情を説明し、それをメンバーがシェアして発信した。すると、その投稿があつという間に拡散され、冒頭に書いたようなことに。多くのメディアで、私たちの反論が夕方のニュースのトップを飾った。

ただし、台湾ではこんな小事件は日常茶飯事だ。民主主義社会に住む、2300万人の政治好きな人々が、毎日おもしろいニュースを探し回っている。その手のひらの携帯上のムードで、政治家は激しい浮き沈みを繰り返す。政治家もそれを意識して行動する。

実は同じ晩、お会いしたテリー・ゴウは、私たちに4時間半、意気揚々と総統就任への意欲を語っていた。彼は6日後に国民党を離党し、いよいよかと思ったら、4日後に不出馬宣言をした。一体何があったのだろう。

しかし、民主主義は怖い。もしこの激烈な浮沈ゲームを、同じ文化の14億人でやるとしたら、悪夢だ。そんな感想を抱いてしまった。

(益尾知佐子・九州大学比較社会文化研究院准教授)

# 台湾総統選挙とSNSの力